総合 題材「私たちの町 信濃町のこれから」学習指導案

指定校2年次 信濃町立信濃小中学校 授業者 6年1組 中里 一也

1 題材の持つ価値

「先生、川に遊びに行きたい!」「暖かくなったら行こうよ」私が初めて赴任した4月、子どもたちから何回言われただろう。私にそう訴えるその傍らで去年捕まえたという魚の世話や観察に余念のない子どもたち。話を聞くと、5年生のときに総合の時間に川で遊んだり野尻湖で調査活動を行ったりして、本当に楽しかったという。

子どもたちを惹きつけてやまない"川"に少なからず興味を持った私がいた。と言うのも、以前私が在籍した山の中の小さな学校の目の前には清流が流れ、夏の日は子どもたちと思うままに遊んだ経験があったからだった。ひたすら水の流れに身を任せる子、力を合わせて石を集めてきてダムを作る子、網を片手に生き物を追う子…。そんな中で私は子どもと一緒に遊んだり、化石が産出するというその河原で化石を探したり(実際に発見し新聞に載ったり卒業時化石館に寄贈したりという後日談までついて)、地域の郷土史に記されただけの誰も見たことのない白花タンポポを探したりと、本当に楽しい時間を過ごし、その後廃校となった赤い屋根の小さな学校を、今でもふと思い出すのである。

4月に偶然一緒に生活することになったこの子たちも、場所は違えど"川"というフィールドに、かつての私のクラスの子どもや私と同じ面白さ(価値)を感じていることに不思議な縁を感じるとともに、子供を惹きつけてやまない自然には時代や場所を越えた普遍的な大きな学びの意味があるのだろうと、改めて痛感させられた。

地元の川で、今まで一緒に育ってきた友達と一緒に思い切り遊ぶということ。それは今、ここで、このメンバーでしかできないことである。時間の許す限り川に通い、1学期中に3回川へ遊びに出かけ、各々自由にたっぷりと川で遊んだ。計画では夏休み明けに行く予定だったが既に川の水温が低く、断念せざるを得なかった。残念!恐るべし信濃町。

文化祭での学習発表は話し合うまでもなく「鳥居川の魅力」に決定。ただ、この題名では何の魅力もないので見ている人に少しでも子どもたちが感じている魅力が伝わるように「私たちはなぜ鳥居川に行きたくなるのだろう」と題名を変更し、当日を迎えた。また同時にクラス展示では魅力を伝えるパンフレットを作成し、その製作過程と共に展示した。準備の段階から内容や台詞などは自分たちで決め教師は交通整理をするだけで終わったこと、発表の際のフロアからの反応からも、子どもたちがいかに鳥居川の魅力を強く感じているか、そして受け取り手側にも共感しやすい魅力があるということからも、子どもたちのここまでの活動に手ごたえを感じた。

文化祭で発表することで子どもたちは、自分の感じる鳥居川の魅力を言葉や文字に表し感じなおすことができた。しかしそれはあくまで子どもの内で感じている、いわば閉じられた主観的な価値を文字化した段階である。私は、次の段階として子どもたちのこの活動が社会的にどのような意味や価値を持つのか学んでいく(自覚していく)こと、つまり開かれた客観的な価値を見出し社会とつながっていることを感じることが、信濃町に生まれ育ったことを自覚し誇りを持ち、郷土を愛する大人に育っていくことにつながるだろうと考え、題材「私の生きる町 信濃町のこれから」を展開していくこととした。

2 単元展開

時間	学習内容	授業で使用した「新聞記事」、【使用資料】			
1時間目	 ・国語教科書「未来がよりよくあるために」を読み、これから考えること=学習問題「信濃町のよりよい未来とはどのようなものなのだろう」を設定 ・未来の信濃町がどうなっていてほしいか考えるにあたり、信濃町の【課題】を新聞記事からとらえる。 ☆新聞記事から読み取る信濃町の【課題】 ・人口減少(少子高齢化) ・観光客減少 ・消滅の危機 ・次時の学習問題を設定して終わる。 	「進む少子化・人口減少」 「市町村の消滅県内8割危惧」 「信濃町の人口減少止めたい」 「基幹の観光振興模索」 (本資料ではページ数の関係で割愛)			
	学習問題:信濃町のより良い未来とは、どのようなものなのだろう				

2時間目

- ・前時、児童思い描いた信濃町の未来の中でなってほしい 姿を【魅力】と紹介。
- ・児童の感じる魅力を確認後、大人はその魅力をどう感じ ているのか、新聞記事からとらえる。
- ☆信濃町の多くの【魅力】があることを確認。それなのに、 何故観光客が減少しているのかという意見を児童の疑問を取り上げ、【課題】を解決するための【魅力】は何 か考えることを確認して終わる。

「灯篭流し花火大会」 「野尻湖の名ヨット化粧直しで再出発」 「いかだ体験響く掛け声」 「音楽とカヤック楽しむ催し」「自然観察 やカヌー体験」 「野尻湖トライアスロン」

(本資料ではページ数の関係で割愛)

「両陛下再生の森で憩う」

学習問題:信濃町の課題を解決する信濃町の魅力は何だろう

3時間目

- ・信濃町の【課題】を解決するための信濃町の【魅力】は 何か考える。
- その中で、児童が大きな魅力と考える野尻湖の魅力を高める活動をする大人の記事を読む。
- ・野尻湖を美しく保とうとしている人の姿と釣り客が多い面を取り上げ、町の観光資源の大きな柱になっていることを知る。
- ・バス釣りで激増したこと県内外から釣り客が訪れることを読み取る。
- ☆信濃町には数多くの魅力があるが、 信濃町=野尻湖=バス釣りの側面が強いことを押える

「環境美化 思いは湖底へ」 【野尻湖における遊漁料収入の推移】 【野尻湖を訪れるバス釣り客の出発地】 (本資料ではページ数の関係で割愛)

4時間目

学習問題:野尻湖の魅力の一つバス釣りはどのような様子なのだろう

- ・野尻湖漁業組合 HP を紹介しその中で「野尻湖からブラックバス、ブルーギルの生きたままでの持ち出しを禁じます」と大きく明示する理由を考えるの記事から考える。
- ☆既習学習(5年次クリーンラリー)より、ブラックバスの問題点(日本にいる生物に被害を与える)とあわせてどう思うか感想を持つ。
- ・長野県作成のブラックバス再放流禁止のポスターを提示。何故このように呼びかけているのか考える。

【野尻湖漁業組合HP】 「魚の4割コクチバス」 (本資料ではページ数の関係で割愛)

5時間目

学習問題:ブラックバス(外来生物)の問題点は何だろう

- ・新聞や長野県のHPではブラックバスの問題点をどう 伝えているか読み取る。
- ☆長野県で野尻湖以外ではブラックバス、ブルーギルの再 放流が禁止されていること、この2種が"侵略的"外来 種に指定され大きな問題になっていることを知る。
- ☆野尻湖では大丈夫なものが、それ以外の地域ではだめに なっているという現状を知る。

「再放流禁止のポスター」 「外来魚増えて大丈夫?」 【長野県水産試験場 HP】 (本資料ではページ数の関係で割愛)

6時間目 学習問題: 私たちはブラックバス(外来生物)とどう関わっていけばよいのだろう 「外来植物除去 戸隠の森守る」 外来生物の拡大の問題と対策(外来生物の除去と、従来) の環境保全)を知る。 「薄川の外来種 一緒に駆除」 ☆信濃町のよりよい未来とは、今の信濃町のように外来生 「特定外来生物は「駆除を」」 物と共存するのか、他地域のように除去することなの 「佐久の国道沿い外来種駆除作業」 か、どちらが自分の意見に近いか自分の考えを、今まで 「フランスギク霧が峰で増加」 の新聞記事を根拠に持つ(学習問題の設定)。 (本資料ではページ数の関係で割愛) 学習問題:信濃町のよりよい未来とは外来生物と共存することなのか、除去することなのだろうか ・信濃町のよりよい未来とは「外来生物」と共存すること (本時) なのか「除去」することなのか新聞記事をもとに考える。 「保護と駆除 その差は・・・」 ☆答えは一つではなく、考え続けるという大切さを感じる。 8時間 学習問題:信濃町のより良い未来とは、どのようなものなのだろう 単元の学習問題について、自分の考えを今までの新聞記 | 今までの新聞記事 事を根拠にしながら書く。

- ※新聞記事は有料サイト「信毎データベース」から検索と印刷。
- ※1学期から斜面、信毎学習シートで継続して新聞の読み方を学習。
- ※題材直前、信毎の出前授業で新聞の読み方を学習。
- ※学習カードは毎時間、信毎学習シートを似せた形式で自作。
- ※資料の新聞記事は、最初は見出しとグラフだけに絞り、次第に分量を増やしていく。
- 3 本時の学習計画 8時間中の第7時
- (1) 学習のねらい

信濃町のよりよい未来とは外来生物と共存することなのか除去することなのか考え始めた子どもたちが、 在来生物の外来生物の除去作業について書かれた新聞記事を読み主催した活動家のおもいを考えることを通 して、どちらが正しいか答えはひとつではなくどうあるべきか一生かけて考えていく必要性を感じることが できる。

前時: 県内で行われる外来生物の除去作業の新聞記事を読み、信濃町のよりよい未来とは外来生物と共生することか除去することか根拠を添えて考えた。

次時:自分の考える信濃町のよりよい未来についての意見文を、新聞記事を根拠に書く。

(2) 学習の展開

展開	学習活動	予想される児童の反応	時間	指導と評価
はじめ	1 学習問題を 確認し、 会 の 会 と と さ う。	学習問題 「信濃町のよりよい未来とは外来生物と共存」することなのか、除去することなのだろうか」 ・信濃町はブラックバスを目的に釣りに来る観光客が多いから共存するのがいいと思う。 ・信濃町は少子高齢化が進んでいるし観光客も減って消滅の危機もあるから共存していく。 ・ブラックバスは他の魚を食べてしまうから、いないほうがいい。 ・駆除や共存ばかりじゃなくて、両方のうまい方法を生かしたやり方って何かないかな。 。自分のおじいちゃんもいろいろな魚がいなくなるから、バスはいないほうがいいって言ってた。	10'	 ○ 学習問題について、友のさまざまな意見を聞くことで信濃町のよりよい未来についてより問題意識を深めるようにする。 ・今まで学習した事実(新聞記事)からそう思ったのか問い返し根拠を持って語れるようにする。 ・共生、除去の両方の意見を取り上げる。 ・駆除や共存、両方の考えに目を向けた考えを取り上げる。 ・保護者の方の考えにも目を向けた未来の考えを取り上げ大人はどう考えているのか問いかけ学習活動2に入る。

_	-			1	
なか		新読みが感える。	学習課題 外来生物の除去活動に参加している人はどんな気持ちで参加しているのだろう ・やっぱりここでも外来生物は除去されている。 ・私たちは共生がいいって考えた人が多かったけど、大人は外来生物は除去しようと考える人が多いのかな。 ・信濃町と同じ観光でも飯縄高原では生態系に悪影響をあたえるかもしれない外来種では観光を成り立たせることに問題を感じているんだね。 ・きれいな花で観光客も見に来たいって言っていても抜き取っているんだね。 ・在来種を守るためには割りきって作業している人もいるんだね。 ・景山さんも除去作業を始めた人だから、仕方ないって割り切っているんじゃないかな。 ・景山さんも考えながら活動しているんだ。大人でも一生かけて考えていく問題なんだね。	25'	 外来生物の除去活動に参加した人の感想が印刷されていない記事を読み、そのおもいがどのようなものであったのか考える。 ・記者の問いを解説(自然が変わってのと解説であるとは正しいことをかりし、たかは正しいに何と答えたか相がを加えて考えるように問う。・個人で考えた後班毎になり自分の考えに根拠を沿え、伝え合う。・班毎の考えを確認し、消した部分を紹介し感想を聞く。 ・証毎の考えを確認し、消した部分を紹介し感想を聞く。 ・ご言いてきれているといてきかいく必要性を感じることができたか、発言、学習カードへの記述からとらえる。
おわり		本時の学習 を振り返り、 感じたこと を伝え合う。	・除去、共生簡単には決められないね。 ・課題や魅力のたくさんある信濃町のよりよい 未来とは簡単に答えは出ないけど、考えるっ ていう方法もあるんだね。 ・答えははっきり出なくても、外来生物にもいい ところ悪いところがあるから、在来生物と両 方のいいところをうまく活かせるように考え ていきたい。	15'	本時の学習問題について、今日話し合って感じたことや気づいたことを振り返る。新聞記事や友の発言などで考えが変わったりわからなくなったりしたものを大切に扱う。

【児童の感想(学習カード)】

「自然の変化に人間が評価を加えるのは妥当なのか、それとも・・・」を

簡単な言葉に直すと・・・

自然が変わって行く事に、人間がよい悪いと判断することは正しいことか?

☆この問いに影山さんは何と答えたと思いますか 言評価を移のは、みないと思う

→この答えを聞いてどう思った?

☆今日の感想を書きましょう外来 信濃町のかりよい未来は生物に評価もつけず、

一生から、考えていくこと、

自然の変化に人間が評価を加えるのは妥当なのか、それとも・・・」を 簡単な言葉に直すと・・・

自然が変わって行く事に、人間がよい悪いと判断することは正しいことか?

OMINIC越上思力。自然はでった人間も変わっている。 思いと思う。自然はでった人間のものじゃないから。 あなた ☆この問いに繋ょしえは何と答えたと思いますか は、原水をない。自然が変め、これとくも悪くもなりから。 いるなが変め、これとのは、しょうがない。評価をするのはなり、。 自然はすごくだものなものは、と思う。

La 一生をかける < "らいた+TTなもの。 ☆今日の感想を書きました。

外来生物も自然を同じく一生をかけて考える

ものだから、共生も除去もかり。その切のトロで時間をかける考えている。 (在来種と外来種をかけて観光のものにすれば"いいを思う。)

音リリロか(いる)を302.

「自然の変化に人間が評価を加えるのは妥当なのか、それとも・・・」を

簡単な言葉に直すと・・・

自然が変わって行く事に、人間がよい悪いと判断することは正しいことか?

野いたかなこの問いに影山さんは何と答えたと思いますか 自然のまでよ) 「正しくない」と答えたと思う。

目にはない。 答えば、理由 一般が代かり、人士変わるから自然が変わるのに計価を加える権りはないと思う。 教なべれ、人士変わるから自然が変わるのに計価を加える権りはないと思う。

すごく時間がかかる。す大変。

☆今日の感想を書きましょう

信濃町のブラックバスでも答えはないのかな、と思った。ブラックバス も、除去する、していての色々は意見が出ているので、一生とよいかなくてせてラックバスも、時間をかけて除去すかしないかを、決めていけたらたい。

「自然の変化に人間が評価を加えるのは妥当なのか、それとも・・・」を

簡単な言葉に直すと・・・

自然が変わって行く事に、人間がよい悪いと判断することは正しいことか?

焙えばない。 一心植物だから 一生かけて考えていくものでしょり。

マニの答えを聞いてどう思った? 良いとも言えなくて思いとも言えないから人かず判断しなくてもいいと思う。

☆今日の感想を書きましょう

自然が変わって行っても、悪いだけではないし良いだけでも ないから人が判断しなくてもいいと思った。

で使用した新聞記事 授業 【資料①】 (本時)

(他の授業の記事はページ数の関係で割愛)

※児童には、答えに直結する見出しは感想などを削除して配布

長野の飯綱高原で外来植物の抜き 取



然観察インストラクターで ョウブにスプレーで目印を付

会。作業前日の今月1日、県 って抜き取りをしている同 2012年から参加者を募 態系に影響しかねないためだ。守るべき花、取り除くべき花。そ アヤメ科の外来植物キショウブが繁茂し、住民らでつくる「飯綱 黄色い花がじゅうたんのように広がることで知られるが、近年、 こにどんな差があるのか、「駆除」に参加して考えた。 (藤木 郁弥) 高原を美しくする会」 が毎年抜き取り作業をしている。 従来の生 飯綱高原ボランティアガイド 会の影山貞夫さん(77)らに教 わり、まずは抜く予定のキシ

> と思う植物を見つけたが、「そ らった。葉をよく見て、それ のがキショウブ」と教えても

なものが浮かび上がっている

たのは数本だった。

おではキショウブを

9割は除

これまでに湿原の南側約1

翌2日は雨。それでも3人

ゲ(イネ目)が生えるように 湿原の近くで見られるカサス 去したという。抜いた跡には

マは優しそうで、キショウブ れはガマ」と影山さん。「ガ

は強そうな感じ」との助言を

込めてスコップを突き立てて

いる。「根には芋がある」と

に、「キショウブもきれいな

一方、リュウキンカと同様

性の参加者たちが全身の力を

しい」と影山さんは話す。 ももっと増えてくれればうれ なり「いずれはリュウキンカ

を取った。周りを見ると、男 記者もスコップでキショウブ が集まり、作業が始まった。

取り除く

長野市飯綱高原にある大谷地湿原。初夏には、リュウキンカの

ける作業に加わった。 現場

を評価 え出ず 自然



者に伝える影山さん(右)=2日

大谷地湿原のリュウキンカ

れない外来種で観光を成り立

葉。考え込んでしまった。

(月曜日に掲載します)

答えはない。一生かけて考え

ていくものでしょう」との言

キショウブ (環境省戸隠 人谷地湿原に咲いていた

自然保護官事務所提供)

だと分かった。当時は湿原 どの対策を求めるキショウブ う。影山さんたちが花の種類 面にキショウブの花が目立っ を調べると、環境省が防除な になったのは6年ほど前とい そんな電話が寄せられるよう たい」。飯綱高原観光協会に 「黄色いアヤメを見に行き のか聞くと、「自然の保全に とも…。影山さんにどう思う 加えるのは妥当なのか、それ

が、根が網の目のように張り る。抜いたつもりだったが、 取ったが、記者は1株も掘り 巡らされ、体重45台の自分 根を残していたようだ。 ほど、他の人が抜いたキショ 隣の人が教えてくれた。なる 出せなかった。 全体でこの日は1ヶほど抜き ではびくともしない。参加者 ウブには球根のような塊があ 今度こそはと再び掘った り作業に参加している飯綱高 田美代子さん(71)=飯山市。原ボランティアガイド会の門 花です」と話すのは、抜き取 どこか複雑な気持ちとしつ

ヤナギなどが増える変化も起 も生き残るために根を張って 感できた。その湿原にしかな 生育を妨げかねないことは実 り切っている」と語る。 つ、在来種を守るために「割 きているといわれている。 どが堆積して乾燥化が進み、 に張っていれば、他の植物の いる。湿原では枯れたヨシな とも思う。ただ、キショウブ い多様な植生が続いてほしい 確かに、根があれほど頑強 自然の変化に人間が評価を

る。「葉の真ん中に筋のよう めたが、どれも同じ草に見え さんがスプレーを吹き付け始 約5秒の湿原の一角で影山 にくい。結局、色を付けられ やヒオウギアヤメとも見分け もらったが…。難しい。 辺りに生えているショウブ

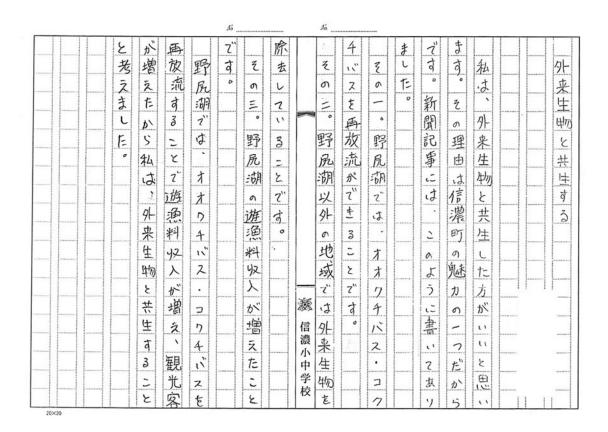
ている一方、志賀高原などでは刈り取りの対象となっている。

んが抜き取りを提案した。 たせていいのか一と、影山さ

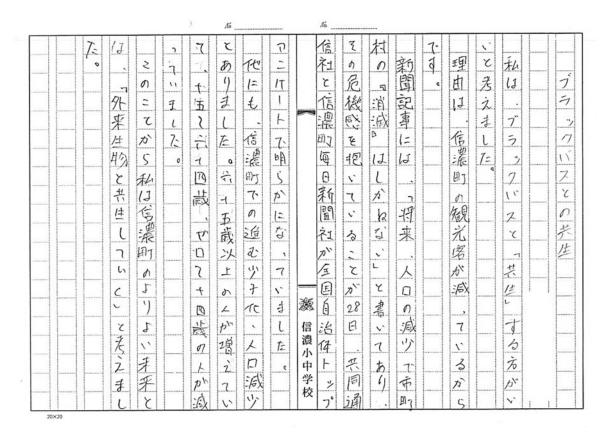
類している。 県内でも、 田んぼのあぜなどに生えて親しまれ を咲かせる。環境省は、生態系に被害を及ぼす恐れがあるとし し甚大な被害を与えると予想される「重点対策外来種」に分 てリスト化している外来動植物429種のうち、 国内に定着 った。葉や茎は高さ1於ほどになり、5~6月ごろに黄色い花 ▼ て国内に持ち込まれたとされ、各地の湖沼などに広がまショウブ 欧州などの原産。明治時代に観賞用とし

(2017年6月19日付信濃毎日新聞)

【資料②】第8時で書いた児童作文



	A6	stá ·	
世に、 でき物に影響をあたえて真皇な魚が減ってきているから、信濃町の有名な食べいました。	っ 在 中	でなってしまう。と、書 根拠は、大型のコイドフ ました方がいいと思いま	と、他の生き物に影響をあたえてしまうからす。その理由は、ブラックバスは除去した方がいいと思いまれば、信濃町がよりよくなるには外来生物にある。 こう アンスを除去した方がいいと思いま



【作文を書かせる際に留意したこと、作文を書く児童の様子、取り組み後の児童の様子等】

- ○自分の考えを作文にまとめるにあたって基本のかたちを示した。
 - ①結論 自分の考える信濃町のよりよい未来とはどういう姿か【除去、共生、その他】
 - ②理由 何故、そう考えたか
 - ③根拠 自分の考えを支える新聞記事
 - ④自分の考えをもう一度書く
- ○自分の考えを書くことに苦手意識を持つ児童が多く、また、自分の考えを主観的に書く児童も多い為、基本の 形を示した。
- ○第8時間目、何をどう書けばよいのか迷う児童はほとんどいなかった。
- ○特に書くことに抵抗感を持つ児童(児童作文4枚目、5枚目) も、根拠を明らかにしながら自分の考えを書く ことができた。
- ○7時間目では、YesかNoかのステレオタイプの考えから次の段階に引き上げる資料として新聞を扱ったが、 作文ではそのことに触れる児童はいなかった。
- ○1学期から「しんまい学習シート」「斜面」書き取り、に取り組み続けているが、何をどう読めばよいのか読み 方が大分身につき、テストの平均点もあがった。
- ○テスト (読み) では上位生はあまり大きな変動はなかったが、下位生の全く手につかない、何をしたら良いのかという状況は少なくなった。
- ○日記で俳句のような日記しかかけなかった児童(児童作文5枚目)の日記も、11月頃から変化し始めその日あったことや思ったことを少しずつではあるが書けるようになってきた。

【指定校実践を終えるにあたって】

- ○年度当初から"新聞を使うことが目的にならない"ことを一番心がけた。
- ○その為に、日ごろの子どもの生活に必然性があり、子どもの生活が豊かになり視野が広がる題材を第一に考え、 尚且つ関連した新聞記事が充実している題材を選んだ。
- ○日常業務の圧迫にならないように日ごろから少しずつ準備(主に記事探し)を行ったため、負担感はあまりなかった。
- ○負担感なく日常の仕事と同一線上に準備できたことは周りの職員への無言のメッセージとしてNIEへの抵抗 感軽減に役立ったと思われる。
- ○NIE推進協議会の皆様方が親身に協力くださり心強く実践を進めることができた。感謝です。ありがとうございました。